

高松市の東部に位置する牟礼町は、古くから「石のまち」として栄えており、世界一高価な花崗岩「庵治石（あじいし）」の産地として有名だ。この庵治石の採れる山の麓には、隣町の庵治町と合わせて200以上の石材店が軒を連ねている。

庵治石をはじめとして石の歴史と文化を紹介する施設として、「高松市石の民俗資料館」が95年3月に開館した。ジオラマなどで機械化以前の石工の仕事風景（石の切り出し・運搬・加工作業）を紹介しており、96年12月に国の重要有形民族文化財に指定された「牟礼・庵治の石工用具」791点が展示されており、採石から加工に至るまでのすべての工程を網羅している。屋外には、庵治石を使った彫

刻作品が展示されている。04年4月に当時の町長の呼

一般財団法人日本不動産研究所<sup>43</sup>

## 地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

### 高松市牟礼町 石のまち

び掛けにより高松市と合併前、幻想的な雰囲気の木田郡牟礼町でまちの活性化と地域産業の振興を目的に「むれ源平まちづくり協議会」が発足した。源平史跡と石材産業をコラボレーションするとういうコンセプトのもと、翌05年より石と灯りのイベント「むれ源平石あかりロード」がスタートした。この「石あかりロード」は、牟礼町内のコトデン「八栗駅」から源平史跡「駒立岩」までの旧庵治街道（約1キ）の街路沿いに、地元石材店が製作した「石あかり（石）でできた彫刻家や、アーティスト、庭園や公園などの環境設計、家庭や公園などの環境設計、家（照明）」を夏の40日間毎晩灯



彫刻家イサム・ノグチの遺志を実現するために開館した庭園美術館

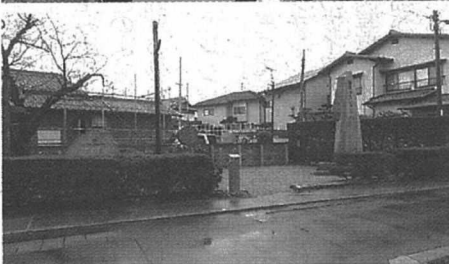
## 幻想的な石あかりロード

## 源平史跡と石材産業が融合

具や照明のインテリア、舞台美術など多方面にわたって活躍した。

### 市が事業を本格化

1956年に初めてこの地を訪れたノグチは、庵治石の採れるこの地を気に入り、1969年からアトリエと住居を構えて日本での制作の拠点とした。以降20年余りニューヨークを行き来しながら石の作家である和泉正敏をパートナーに制作を行った。イサム・ノグチ庭園美術館は、ノ



石の歴史と文化を紹介している高松市石の民俗資料館④ 旧庵治街道周辺には「駒立岩」⑤「絵門」⑥などの源平史跡が点在する

グチの遺志を実現するため

高松市はインバウンドをはじめとする観光客の増加を受け、19年度から屋島活性化事業を本格化させ、山上に拠点施設の工事を今夏予定している。また、周辺観光地をPRする多目的広場の整備を検討している。

これにより隣接する牟礼町は、源平合戦の史跡という歴史的資源および石材産業の資料館、彫刻という文化的資源により観光地としてのアピールがよりできることになると思われる。地域資源を生かしたまちとして一層発展していくことに期待したい。

（高松支所、不動産鑑定士・富永和志）